

教師ノート

日付	2014年 1月19日
単元	創世記・5
テーマ	試練を与えてくださる神
タイトル	試練の時
テキスト	創世記40章
参照箇所	創世記41:1
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) Iコリント10:13	
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます) 小下2巻5題6課 、 小上1巻1題8課	
□導入 私たちを愛してくださる、やさしい神さまが、私たちに苦しいことや難しいことをあたえることって、あると思いますか？	
□ポイント1 献酌官長と調理官長は監獄の中で夢を見ました(40:1~8) ヨセフが監獄に入れられている頃(ヨセフ28歳)、エジプト王の献酌官長と調理官長とが、パロに罪を犯して、ヨセフと同じ監獄に入れられました。侍従長(ポティファル)は、ヨセフに彼らの付き人になるように命じました。献酌官長と調理官長は高い地位の役人だったので、監獄の中でも付き人がつけられたのです。ヨセフは監獄の中で、彼らに仕える身となりました。 監獄の中で、同じ夜に、献酌官長と調理官長はふたりとも、不思議な夢を見ました。古代エジプトでは、多くの人が、夢には意味があり、未来のことがわかると信じていました。いったいこの夢は何の意味があるのだろう、と考えましたが分かりませんでした。監獄の中では、夢を解き明かす専門家がいません。 朝になって、ヨセフが彼らのところに行ってみると、彼らはイライラしている様子でした。「なぜ、きょうはあなたがたの顔色が悪いのですか。」とたずねてみると、ふたりは「私たちは夢を見たが、それを解き明かす人がいない。」と応えました。ヨセフは、夢を解き明かすことは、人間の知恵できないことを知っていました。まして、未来のことが分かるのは、全知全能の神だけだと信じていました。しかしエジプト人は、創り主なる神を信じていませんでしたので、ヨセフは「さあ、それを私に話してください」と言いました。	
☞ 献酌官: 古代エジプトの重要な責任のある官僚。王に酌をするだけでなく、王の側近くで仕え、護衛や相談役を務めたと考えられます(ネヘミヤ2:1)。	
☞ 調理官: パロの高官。王に食事(おもにパン)を作る仕事は、非常に名誉ある役職でした。	
☞ 「侍従長」はポティファルのことです。彼の家王の監獄が付設されていたということが分かります。ポティファルは、侍従長であり、宮廷の監獄の責任者・司法官のような役もしていたと考えられます。	
□ポイント2 ヨセフは献酌官長と調理官長の夢を解き明かしました(40:9~19) まず、献酌官長が先に、ヨセフに自分の夢について話しました。「夢の中で、私は1本のぶどうの木があるのを見ました。そのぶどうの木には3本のつるがありました。花が咲き、ぶどうの実が熟しました。私はパロの杯を持っていたので、そのぶどうを取って、それをパロの杯の中にしぼって入れ、杯をパロにさせ上げました。」ヨセフは夢の意味を解き明かす賜物を神さまから与えられていました。彼はその夢の意味を説明して言いました。「3本のつるは3日のことです。3日のうちに、パロがあなたを監獄から出し	

てください、あなたは以前と同じように、パロの宮殿で働くようになるでしょう。」

ヨセフは、この解き明かしが現実になると信じていたので、続けて献酌官長にお願いをしました。「あなたが監獄から出されて、元の仕事に戻ったとき、私のことを思い出してください。そして私のことをパロに話し、私が監獄から出られるようにしてください。」ヨセフは監獄の生活が我慢できなくなったわけでも、親切にしたことの交換条件を出したわけでもありません。ただ、自分は監獄に入れられるような悪いことは、何もしていないという事実を、パロに理解してもらえれば、自由にしてもらえると考えていたのです。

はじめは外国人の奴隷に解き明かしなんてできるはずがないと考えていた調理官長も、ヨセフの解き明かしが良かったのを見て、自分の夢のことをヨセフに話しました。「私は夢の中で、頭の上に枝編みのかごを3つ乗せていました。1番上のかごには、パロのために調理官が作った色々な食べ物(パン)がはいっていましたが、鳥が来てそれを食べてしまいました。」ヨセフは、その夢の意味を解き明かして言いました。「あなたの夢は、3つのかごは3日のことです。3日のうちにあなたは監獄から出されますが、死刑になります。そして木につるされるので、鳥があなたの肉をむしり取って食べるでしょう。」

- ☞ 15節「ヘブル人の国からさらわれて来た」：この表現は、ヨセフに起こったことを正確に伝えてないように思えるかもしれません。しかし、ヨセフは、自由を奪われ、奴隷として売られるという扱いを受けたのだから、「さらわれた」と同じような気持ちだったのでしょう(申命記24:7、出エジプト21:16参照)。

□ポイント3 ヨセフは2年間、監獄で過ごしました(40:20~23)

3日めに、パロの誕生日の祝宴が行なわれました。王のすべての家来が集めてパーティーをしたのです。監獄の中にいた献酌官長と調理官長は、そこに呼び出されました。なんと、そこでヨセフが彼らの夢を解き明かしたとおりにになりました。パロは献酌官長を元の仕事にもどし、調理官長を死刑にして、木につるしました。

献酌官長と調理官長の刑罰の違いは、彼らの罪の重さが違ったからなのか、それとも、同じ罪を犯したけれど、献酌官長だけが祝宴の特赦を得たからなのか、全く不明です。ただ間違いないことは、神を信じないふたりの夢を、ヨセフが神の知恵によって正確に解き明かしたことです。またエジプトの王の未来の行動まで、神の御手のうちにあったことも確かなのです。

こうして、ヨセフの言ったとおりのことが現実になりました。しかし、自由になった献酌官長は、ヨセフに頼まれたことを、すっかり忘れてしまいました。彼がパロにヨセフのことを話さなかったので、ヨセフは監獄から出られず、2年間も過ごすことになってしまいました。何も悪いことをしていないのに、2年間も監獄で過ごすとは、なんとつらいことでしょう。どうして神は、ヨセフをこんなひどいめに合わせたのでしょうか？

□結論 神さまは、ヨセフに試練を与えられました *暗唱聖句を読み上げます*

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例：ヨセフは無実なのに、2年間も監獄から出られませんでした。せつかく出られるチャンスだと思ったのに、献酌官長は、ヨセフのことを忘れてしまいました。神さまはヨセフを見捨てたのでしょうか？それとも、神さまにとって、ヨセフを監獄から出すことが不可能だったのでしょうか？もちろんそうではありません。監獄での生活は、神さまがヨセフに与えられた試練だったのです。神さまは私たちを用いて、神さまのすばらしさをあらわしてください。それにふさわしい器になるために、神さまは私たちに試練を与えて練ってください。あなたの人生にも神さまは試練を与えられます。「神は真実な方ですから、あなたがたを耐えることのできないような試練に合わせるようなことはなさいません。むしろ、耐えることのできるように、試練とともに、脱出の道も備えてくださいます。」試練にあっているときは、ツライし、「なんでこんなことが起こるの!？」と文句を言いたくなります。献酌官長がヨセフのことを忘れたことも無実の罪で2年も監獄に入っていたことも、私たちだったら「神さま、どうして!？」と、不満に思ってしまうそうです。でも、私たちにとっては不本意なことでも、神さまにはちゃんとお考えがあるのです。あなたを用いて、神さまのすばらしさをあらわすためです。大切なことは、神さまを信頼することです。試練には意味があることを信じよう！神さまが目的をもって、試練を与えてくださっていることに気づこう！この試練に耐えたヨセフは、総理大臣になったのです!!!